

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070001351
法人名	株式会社 ウキシロケアセンター
事業所名	グループホーム いこいの里小波瀬 ユニット名 2階・3階
所在地	〒800 - 0344 福岡県京都郡苅田町大字新津1505 - 27
自己評価作成日	平成23年9月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年9月16日	評価結果確定日	平成24年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小波瀬の小高い丘にあり、周りは閑静な住宅地が広がっている。眺めも良くJRの駅や空港など交通の便も良い。隣に同事業所の特定施設があり行事や催し物など合同で行っている。家庭的な雰囲気と毎日安心して穏やかに過ごせる介護を目指し職員一同意欲的に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特定施設が併設され、年に数回行われる合同行事には地域住民の参加も得ており、盛況に開催されている。また、災害対策においても、地域と事業所それぞれの訓練に、相互に連携と協力が図られる等、地域との根付いた関係性が築かれている。また、多様な福祉事業を展開する母体法人のスケールメリットは、各種委員会活動や、外部講師を招いて認知症やターミナルケアに関する研修を実施する等、質の向上に活かされている。外出の機会が多いことも特徴的であり、ドライブ記録による日常的な外出が確認でき、また、年1回、家族との温泉旅行を企画したり、個別の外出に出かける機会もある。開設して7年目を迎え、現在、排泄ケアや口腔ケアを重視し、自立支援や機能活用に取り組んでいる。入居者、家族の安心できる環境の中で、温かい介護の提供を目指している事業所である。

**サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人の人格を尊重しながら、家庭的な環境の下で安心と尊厳のある生活を提供することを理念に揚げ、共有空間に提示している。理念を理解し日々の関りの中で実践している。	人格の尊重や尊厳のある生活、自立支援を理念の柱とし、目に付きやすいところに掲示することで、意識した支援となるよう取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域での行事(敬老会/神幸祭・盆踊り)や活動(清掃・災害訓練)に参加しながら交流を深めている。	町内会への加入及び地区の話し合いにも参加し、入居者と共に清掃活動を行う等、地域の一員としての役割を担っている。また、地域の伝統行事や敬老会への参加や、年4、5回、盛況に開催される隣接施設との合同行事には地域からの参加も得る等、相互に交流を深めている。災害対策での相互協力も図られている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内にて勉強会や講演会など開催し、ご家族や地域の方々に案内している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に1回家族代表、地域代表、行政担当者に参加頂き開催している。ホーム内の問題点や、入居者の状態、行事の報告など意見や、指導頂き、サービス向上に繋げている。	運営推進会議は、家族代表、町内会長、副会長、他法人ソーシャルワーカー、見識者、行政担当者等、多彩なメンバー構成にて定期開催されている。困難事例への対応や看取りへの取り組みについて議題として取り上げ、意見交換や助言を頂いている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターを、訪れた際、情報交換や相談行っている。又運営推進委員会にて、行政担当者との情報の共有を図っている。	運営推進会議には、町役場担当者の出席を得ている。また、事業所独自のオンブズマン委員会での活動を通じて、情報共有や連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人ひとりの状態を把握し、カンファランスを繰り返して行き身体拘束をしない支援を行っている。夜間以外は玄関施錠せず解放している。	日中の玄関の施錠や、エレベーターの使用制限は行われていない。また、生活環境の整備や工夫を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。勉強会や委員会活動を通じて、言葉による抑制についても意識を持った支援が行われている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内にて、勉強会を行い虐待防止に努めている。		

福岡県 グループホーム いこいの里 小波瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている方はいないが、事業所本部が一括して行っており、常に相談に応じられる。	成年後見制度や日常生活自立支援事業について、現在活用されている方はいない。法人内の活用事例をもとに情報共有を図りながら、法人全体での体制づくりが行われている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書を用いて、項目ごとに説明している。本人と家族が納得、了承されたうえで契約、解約を行っている。改定の際は、事前にお知らせしている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会、オンブズマン委員会(第3者における外部相談委員)には家族の参加があり、意見や要望を聞く場となっている。意見は運営に反映するよう努めている。	事業所独自のオンブズマン委員会が組織されており、家族や地域代表者、行政等のメンバー構成により、併設施設と交互に毎月開催されている。毎月の通信と共に、担当者による詳しい状況報告が行われている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、施設内ミーティングと事業所全体のミーティングを行い意見交換の場を設けている。	職員全員参加のミーティングや法人としてのミーティングを毎月行い、職員の意見や提案を検討し、運営に反映させている。法人代表者がミーティングに参加する機会や、総施設長による個人面談の機会も設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月管理者ミーティングを行い各事業所スタッフの現状報告、見直しを、行っている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別による排除は行っていない。向上心や社会人としての資質を重視している。事業所全体や施設内でミーティング等行い意見や要望を聞き働き甲斐のある環境作りに努めている。	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除は行わないようにしている。また定年制は設けているが、本人の意欲や状況により再雇用も可能となっている。外部研修参加時のサポートや休憩時間の確保等、スキルアップや働きやすさへの配慮が行われている。併設施設との合同行事は、職員の個性や特技が発揮され、盛況に開催されている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の自由、人権、プライバシーを守るべくオンブズマン委員会を設定している。事業所全体にて、勉強会を行い人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	事業所独自にオンブズマン委員会が設置されており、隣接施設と交互に毎月開催されている。理念の共有や委員会活動、研修等を通じて、人権尊重への意識を高めている。	

福岡県 グループホーム いこいの里 小波瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社より各事業所に研修の案内があり、その都度職員を選抜し研修の機会を与えている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会に参加し意見、情報交換などを行っている。又イベントや勉強会等参加し交流を図り、サービスの向上に努めている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人要望や意見を聞き取り行い、状態や性格等考慮しながら出来るだけ希望に添った支援行い信頼関係づくりにつとめている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、入居時、に家族の希望や意向など聞き取り行い、面会時に状態を詳しく説明している。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所から2週間は、暫定プランにて対応し、暫定プランの間にご本人の必要とする支援を見極めサービス計画作成している。担当者会議には、ご家族様に参加頂くようお願いしている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	地域の行事やしきたりなど入居者の方々に教えられる事が多い。出来ない事のみ手伝い、常に寄り添い共に楽しみなが過ごしていける関係を築いて行けるように努めている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回ご家族様に手紙で状態を詳しく伝え、行事や誕生会の案内行っている。プラン見直し時は、担当者会議に参加お願いし共に支えていけるような関係を築くよう努めている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の催し等出来るだけ参加しているが、利用者が重度化しており、馴染みの関係継続が難しくなっている。	居住していた場所へ散歩やドライブに出掛けている。隣接する特定施設へ入居されている配偶者との面会を、介護計画の中にも位置付け、支援を行っている。	

福岡県 グループホーム いこいの里 小波瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルや孤立する事ないように、スタッフが間に入り、利用者の関係が円滑にいくよう支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も電話等相談あれば、応じるようにしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を聞き取り行っている。困難な場合は、状態に合った支援を行うように努めている。	センター方式やケアチェック表を採用し、各職員が中心となってアセスメントを実施している。各職員は、生活暦やライフスタイル等についての情報を把握しており、思いや意向の把握につなげている。	日々の記録やアセスメント情報の内容は身体状況が中心となり、言葉や行動、心情の変化等、思いや意向の把握につながる記載は少ない。認知症へのアプローチへと結びつけていくためにも、記載内容についての検討が期待されます。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人、家族より詳しく聞き取り行っている。センター方式の基本情報、暮らしの情報用紙使用し、その都度記入している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの、1日の過ごし方、状態、特記事項等介護記録に記入している。状態に変化があれば、申し送りファイル記入しスタッフ全員が把握出来るようにしている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員、医療関係者の意見、意向を反映させたプラン作成している。プラン作成時担当者会議に家族の参加をお願いしている。	担当者会議には、本人、家族の出席を得ている。家族の役割や関係性の継続についても示されており、その人らしさへの支援の実践に結び付けている。ケアプラン実施表による日々の確認、及び毎月のモニタリング、評価を見直しへとつなげている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン実施表にて、日々の実践を行っている。状態に変化があれば、職員間でカンファシ状態に合わせたプランの見直しを行っている。		

福岡県 グループホーム いこいの里 小波瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同事業所の特定施設が、隣接しており、行事やレクレーションなどの交流を行っている。状況に応じた協力体制を取っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域主催の(イキイキサロン)など参加させて頂いている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向によるかかりつけ医との関係を大切に、適切な医療が受けられるよう支援している。	希望するかかりつけ医への受診を支援している。また、協力医による、月2回の往診や、歯科往診についても、随時対応している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する特定施設に看護師がいる、同事業所に訪看があり常に相談に応じてもらっている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に御見舞いに行き、状態、経過を看護師やソーシャルワーカーに尋ね、家族と今後の対応相談を行っている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の支援については、同事業所にもターミナルケアに対応する体制がある。状況の変化に応じ、主治医と家族、本人との相談のうえ、本人、家族の意向に添った支援を行っている。	入居時に、重度化や終末期に向けた方針を説明している。状況の変化に伴い、医師を交えた話し合いを行い、意向確認及び方針の共有に取り組んでいる。法人として外部講師を招き、ターミナルケアについての研修実施を主催している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応の仕方など、定期的にミーティングにて確認している。年2回消防署の心肺蘇生法のレクチャーを受けている。		

福岡県 グループホーム いこいの里 小波瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的防災訓練を、地域の方々の参加、協力により実施している。訓練は、職員全員参加している。	隣接施設と合同にて、年2回、消防署の立会いを含む避難訓練を実施しており、地域住民の参加を得ている。また、地域の防災訓練にも参加する等、連携体制を築いている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活のなかで、入居者に対する対応の仕方、言葉使い等職員間で確認している。施設理念にも掲示している。	理念として、個々の人格の尊重や尊厳のある生活と掲げ、職員間での共有と浸透を図っている。排泄ケアの際には特に留意し、声かけや対応を行っている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話を傾聴し、声かけなど工夫して自分の思いを出せるよう働きかけている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個人のペースにあわせ、起床・就寝・食事の時間等柔軟な対応を行っている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪、顔そり等訪問ビューティにお願いしている。衣類の選択を出来るだけ本人にしてもらい、最終チェックはスタッフがしている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は隣接する特定施設にて調理している。時々簡単なオヤツなど一緒に作り楽しんでいる。	隣接施設の厨房にて、栄養バランスや嗜好、形状等に配慮された調理が行われており、ゆっくりとした食事風景があった。法人として、食事・口腔委員会が設置されており、目標設定と検証が行われている。誕生日にあわせて、個別の外食に出かけている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に応じ食事量や食事形態を変え身体レベルに合わせ声かけや介助している。介護記録に食事量・水分量の記録を行い摂取量の把握に努めている。		

福岡県 グループホーム いこいの里 小波瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後口腔ケアの声かけ、必要に応じて見守り、介助行っている。</p>		
45	(19)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>施設内に排泄委員会を設置。一人ひとりに合った排泄支援を行っている。失禁をなくし、トイレにて排泄出来るよう努めている。</p>	<p>排泄チェック表により、個別の間隔やパターンを把握に努め、介護計画の中にも位置付けながら、トイレ誘導等、個別の支援を行っている。今年度より、排泄委員会が設置され、排泄の自立に向けた支援に重点的に取り組んでいる。</p>	
46		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>個人の排泄パターンを把握しトイレ誘導している。食事や水分量の把握、体操等をお誘いしている。</p>		
47	(20)	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている</p>	<p>基本的に入浴日を決めているが、個人の希望や状況に合わせて入浴出来るようにしている。季節行事菖蒲/ゆず)風呂楽しんで頂いている。</p>	<p>基本的な入浴スケジュールはあるが、その日の希望や状況に柔軟に対応するように努めている。年1回、家族とともに温泉旅行に出かけている。</p>	
48		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個人のペースに合わせて起床・就寝して頂いている。本人の希望や状態に応じてお昼ねや休息をして貰っている。</p>		
49		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個人のカルテに処方箋を添付し、スタッフは、薬の把握するようにしている。薬変更あれば服用後の状態の確認、Drへの報告行なっている。</p>		
50		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>食器洗いや、掃除、洗濯物たたみなど出来る事を手伝って頂き張りのある生活を送れるように努めている。就寝前に温かい飲み物や少し御酒など楽しんで頂いている。</p>		

福岡県 グループホーム いこいの里 小波瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や入居者の状態を考慮しながら希望に応じている。年に1回家族の了解と協力で一泊旅行を実施している。	ドライブ記録が整備され、希望や天候に応じて、毎週のように出かけていることが確認できる。また、家族の協力も得ながら、毎年温泉旅行を企画している。少しずつ重度化している中ではあるが、個別の外出も含め、戸外に出かける機会を確保できるよう支援している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内紛失防止の為お金の所持は禁止しているが、預かり金として施設にて管理しており必要に応じてお渡ししている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも利用出来る。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	24時間空調にて室温を一定に保っている。リビング内暖色系を多く取り入れ落ち着いた空間を作るよう努めている。又季節や行事にあった飾りつけ工夫している。	高台に位置する2,3階部分にホームはあるため眺めも良く、天候の変化も感じ取ることができる。ソファの配置や畳スペースも設けられ、くつろぎの場所を確保している。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にテーブルや、テレビ前のソファスペース、畳みの空間などがあり、好きな場所で過ごして貰っている。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具や身の回りの物を持って来てもらい、安心して過ごせるように工夫している。	箆笥や椅子、テーブル等が持ち込まれ、また、家族の写真が貼られ、雑誌が持ち込まれていたり、居心地の良さや安心感への配慮が行われている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前に顔写真とネームプレート飾り、トイレや浴室等プレートや暖簾などで認識出来る様工夫している。		